

経営比較分析表

熊本県 阿蘇市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	65.07	80.18	2,581

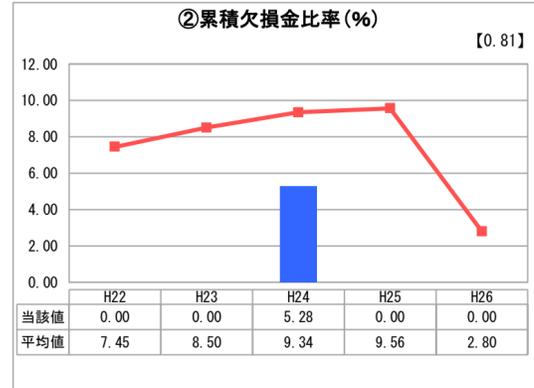
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
27,865	376.30	74.05
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
22,425	191.72	116.97

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成26年度全国平均

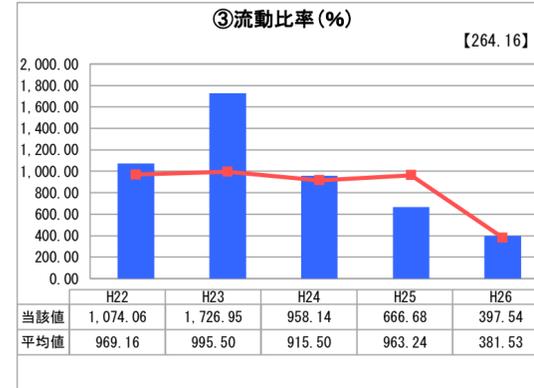
1. 経営の健全性・効率性



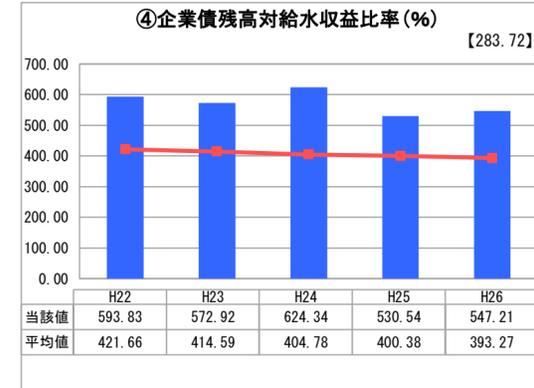
「経常損益」



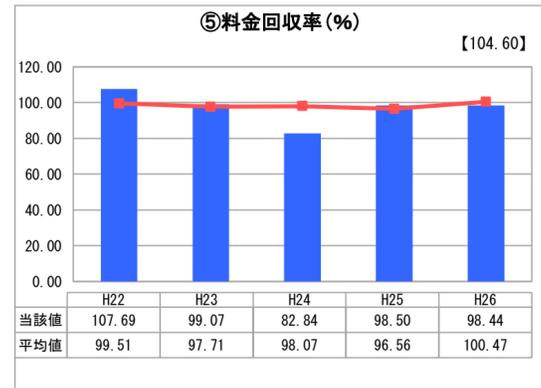
「累積欠損」



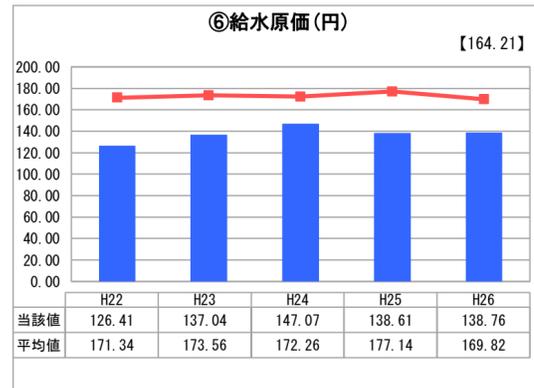
「支払能力」



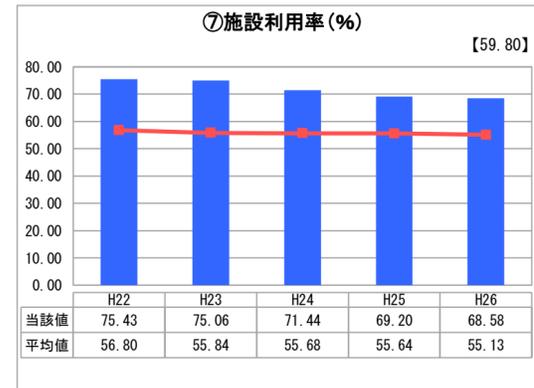
「債務残高」



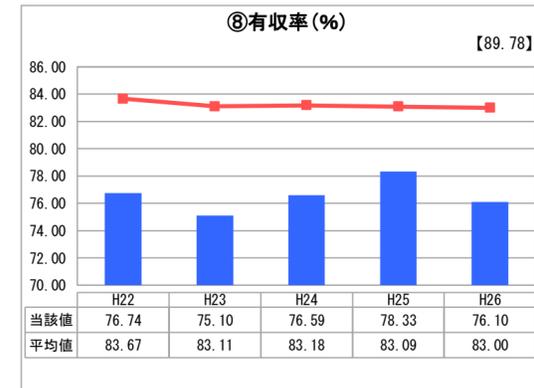
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

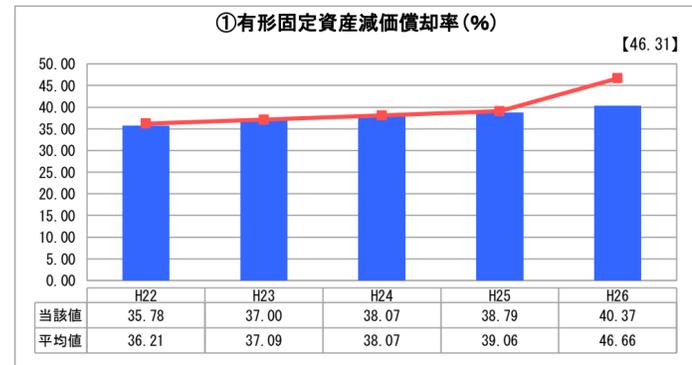


「施設の効率性」

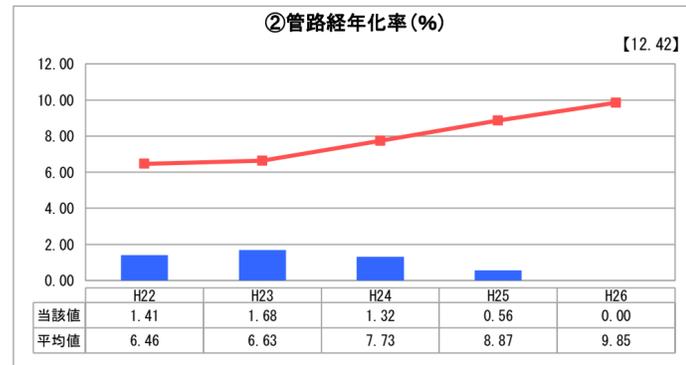


「供給した配水量の効率性」

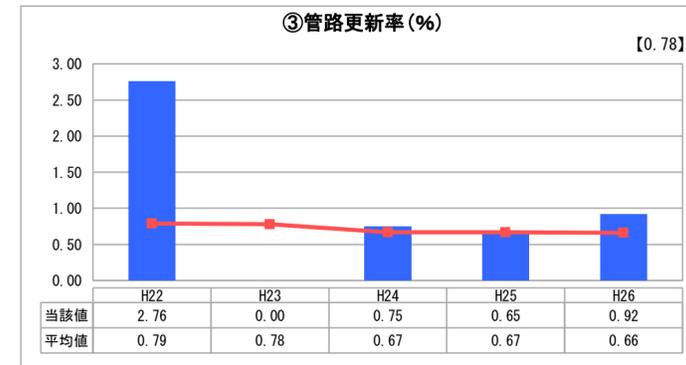
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市水道事業の経営状況は、平成17年の町村合併以来、上水道の料金収入においてはほぼ横ばい、簡易水道においては、微少傾向にあります。H24年度には、九州北部豪雨の影響で20,985千円の欠損金の計上や、経常収支(95.25%)・料金回収率(82.84%)などで数値の減があったものの、人件費の削減や業務の一部委託等の経営の効率化を図ることにより、H24年度以外では毎年度4~50,000千円の純利益を計上しております。

現在、水道事業会計の借入金残高は、平成26年度末で2,148,781千円あり、今後は毎年約2億円の償還をして行かなければなりません。また、老朽化している施設の更新も控えていることから、事業広域化等によるコスト削減、料金体制の見直しなど、いかに借入金に依存せず資金を確保するかがこれからの課題となります。

2. 老朽化の状況について

施設の老朽化により漏水などを引きおこし、有収率・有効率が低下し、水道料金に反映できていない水が多くなることで経営悪化を招きかねません。

本市においても、毎年度(H24:1.7km・H25:1.5km・H26:2.1km)管路更新を進めており、今後も限られた予算の範囲の中で計画的に経年管の更新を行う必要があります。

全体総括

現在のところ、左図のとおり財務諸表及び指数においては大きな問題は見られないものの、将来的には、水道需要者は減少し、水道料金の収入も減少していく中で、各水道施設では更新時期を迎え、過去の建設改良費の元利償還金や既設施設・老朽管の更新等の経費が増えていくことが予想されます。

今後、さらなる改善策として動力費(H26:53,485千円)や修繕費(H26:11,773千円)などの経常コストの削減や漏水調査・施設の効率的な移動による有収率の向上などを行う必要があります。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。